

平成 30 年 10 月 25 日

日中平和友好条約締結 40 周年記念レセプション 安倍総理挨拶

李克強（り・こくきょう） 国務院総理、李小林（り・しょうりん） 中国人民対外友好協会
会長、御列席の皆様、日中平和友好条約の締結 40 周年という記念すべき年を、中国
の皆様と共に、心からお祝いしたいと思います。

今からちょうど 40 年前、中国の国家指導者として戦後初めて日本を訪問された鄧小平
（とう・しょうへい） 副総理と、福田赳夫（たけお） 総理との間で、日中平和友好条約が
締結されました。私の父、安倍晋太郎も、当時、官房長官として、この交渉を支えました。

この条約には、日中関係の礎となる、重要な原則が定められています。

恒久的な平和友好関係を発展させる。すべての紛争を平和的手段により解決する。覇
権を求めない。

以来、これらの諸原則は、日中関係を導く羅針盤となってきました。私は、李総理と共に
手を携え、この大きな羅針盤を頼りに、日中友好の船をできるだけ遠くへ進めていきたいと思
います。

本日、私は、李総理の御招待により、日本の総理として 7 年ぶりとなる中国への公式訪
問を開始します。今回の訪問が、40 年前の条約に込められた先人たちの日中両国の平
和と繁栄、友好への誓いに改めて思いを致し、今後の新たな日中関係を切り拓く契機とな
ることを期待しています。

本日は、日中双方から、条約の締結に携わられた当時の関係者、そしてその後の日中関
係の発展に様々な立場から御尽力された数多くの方々にお越しいただいています。この機
会に、皆様の多大な御功績に対し、改めて深い敬意を表します。

40 年前、批准書の交換を終えた鄧小平副総理は、日本で新幹線に試乗し、当時最
先端のカラーテレビ工場、製鉄所、自動車工場を視察されました。新幹線の中で感想を聞
かれた鄧小平副総理は、「これこそ我々が求めている速さだ」、「今回の訪日で近代化とは
何かが分かった」と述べられました。そして中国に帰国されてから僅か 2 か月後、かの有名な
中国共産党第 11 期三中全会が開かれます。改革開放の始まりです。

つい先ほど、私は李総理と共に、この 40 年の日中両国の歩みを回顧する写真を見まし
た。日中友好病院や宝山製鉄所の第一高炉など、日中協力の下で中国の近代化を支え
る重要な施設が次々と建設されていく様子がうかがえました。

鄧小平氏の唱えた改革開放の下で、世界を驚かす大きな発展を遂げた中国。写真か
ら、その熱気を感じることができました。

この過程で、日本はODA（政府開発援助）や民間の投資を通じ、中国と共に歩み続けてきました。このことをうれしく思います。今や、中国は、世界第2位の経済大国へと発展し、日本の対中ODAは、その歴史的使命を終えました。今日、日本と中国は、アジアのみならず世界全体の経済発展に欠くことのできない役割を果たしています。世界がかつてないほどつながり合い、一国だけで解決のできない問題が増える中、日中両国が世界の平和と繁栄のために共に貢献する、そうした時代が来ていると思います。

明日の李克強総理、そして習近平国家主席との会談では、こうした新たな時代にふさわしい、新たな次元の日中協力の在り方について、大所高所から胸襟を開いて議論したいと思います。

この40年間の日中関係を支えてきたもの、そして、これからの日中関係を支えていくものは、国民同士の絆（きずな）です。うれしいことに、今年の国慶節（こっけいせつ）に、中国人の方々が最も訪れたい場所として選んだのは日本でした。最新の世論調査で、日本に良い印象を持つ中国人の方々の割合が大幅にアップしています。相互理解を増進する上で何より重要なのは、直接足を運び自らの目でありのままの姿を見ることではないでしょうか。

両国の未来を担うのは青少年です。私は青少年の交流を力強く後押ししていきます。青少年交流に長年尽力された李克強総理からも、新たな交流の枠組み作りに賛同いただいています。私自身も明日、李総理の母校である北京大学を訪れ、学生の皆さんと交流することを大変楽しみにしておりますし、学生の皆さんから質問を受けることも予定しているわけがあります。わくわくしながら、どきどきもしているところであります。

今、両国が進む航路の先には、協力の大海原が大きく広がっています。今回の訪中を通じ、皆さん、力を合わせて、日中友好の船を前へ前へと進めていこうではありませんか。

最後に、改めて日中平和友好条約締結40周年をお祝いし、日中の友好協力のますますの発展、御列席の皆様の御健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。